

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第45号—

令和2年2月25日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

平戸市 PTA 研究大会 南部大会 講演報告

「やる気を引き出す実践術～二宮金次郎に見る人づくり～」 中桐万里子先生

2月2日(日)、平戸市PTA研究大会南部大会が多目的センターを会場に開催されました。大会では、二宮金次郎7代目子孫である中桐万里子さんの講演会がありました。二宮金次郎は、農業人らしい発想で、情報や知識に頼らず、自分の目や感覚、体験を基にした実績にこだわった実践主義者でした。二宮金次郎の功績は、自然災害等を受け入れる一方で、工夫と知恵によりその対策を実践し、『水車の理論』で農民に語りかけ、600近い村々を飢饉による危機から復興させました。中桐さんのお話で学んだ「二宮金次郎に見る人づくり」をキーワードとしてまとめました。

「常に、一歩前へ」

二宮金次郎の銅像は有名ですが、この中でも一番大切なものは、本でもなく担いでいる薪でもなく、一歩踏み出している足にあるそうです。常に歩いていること、いつも一歩前へと進んでいることが、最も大切なことです。

「よく見る」

全てのことは、まずよく見ること、「気づき」から始まります。それは、ものを「ただ見る」ではなく、「よく見る」ことです。それはきっと現場をよく見て真因を見付けること、人の表情や動きを見て人の心を知ることだと思います。

「めばった樹」

めばった樹とは、とことん成長の遅い小さな低い樹のことです。しかし、この樹は他のものに比べ、年輪が密となり、そしてその根は縦に深く張り、雨風に強い樹に育ちます。人も上面で判断するのではなく、奥にある本当の姿を見るようにしたいものです。

「積小為大」

「積小為大」とは、金次郎が作ったとされる造語です。「毎日の小さいことの積み重ねが、大きなことを成し遂げる」そして「大きな幸せは小さいところにある小さな種から生まれる」という2つの意味があるそうです。

「報徳」

報徳とは、よく言われる「徳をすれば報われる」ではなく、「徳に報いる」という意味です。今を生きている自分たちは、あらゆるものから恩恵を受けて生きています。日々の中にある「徳」に感謝し、その「徳」を自らの力に変えて報いていくべきという考えです。つまり、ありがとうという感謝の気持ちで行動、実践すること、先祖の徳を次代(子や孫、地域)に返し報いることです。



【お礼】大村謙吾様より、子供たちの情操教育に役立ててくださいと、カブトムシの幼虫70匹をいただきました。ありがとうございました。

